

2026年度

法学部第3年次編入学試験（第2次）

問題紙

小論文

3ページ

解答の書き方

1. 問1、2の解答は、それぞれの解答用紙の所定の欄に、はっきりと記入すること。
2. 受験番号は、必ず2枚の解答用紙にそれぞれ記入すること。
3. 解答を訂正する場合には、きれいに消してから記入すること。
4. 解答用紙には、解答と受験番号のほかは、いっさい記入しないこと。
5. 設問ごとに解答用紙に記入すること。

注 意

1. 監督者の「解答始め」という指示のあるまで、問題紙を開かないこと。
2. 「解答始め」の合図と同時に、解答用紙に受験番号を必ず書くこと。ただし、氏名は記入しないこと。
3. 問題の内容についての質問には、いっさい応じないが、問題紙にページ不足・不ぞろい・印刷不良があるなど、その他の用事があるときは、だまって手をあげて、監督者の指示を受けること。
4. 問題紙と下書用紙は持ち帰ること。

問題 以下の課題文を読んで、後の問いに答えなさい。なお、課題文は内田^{たつる}樹氏と中沢新一氏との対談の一部であり、文頭にある「内田」および「中沢」は、それぞれ両氏の発言を示している。

著作権者の許諾が得られないため、本文を省略しています。

著作権者の許諾が得られないため、本文を省略しています。

著作権者の許諾が得られないため、本文を省略しています。

出典 内田樹・中沢新一『日本の文脈』（角川書店、2012年）より一部抜粋。ただし出題にあたり、一部を改変した。

問1 下線部(1)の「沈黙交易」にはどのような特徴があるか、等価交換に基づく交易との相違を明らかにしながら、400字以内でまとめなさい。

問2 下線部(2)で述べられる考えを前提にするならば、企業が画期的なイノベーションを生み出すためには、従業員に対してどのような報酬政策をとることが効果的でしょうか。その理由も含め、あなたの考えを500字以内で論じなさい。